

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。
 ・本施設は、宮島自然植物実験所、総合博物館、CSR(総合博物館公認学生ボランティア)など多方面から支援を受けています。

自然共生サイトの認定



東広島キャンパス発見の小径水辺ゾーンが、令和6年9月27日に、生物多様性の保全に貢献している区域として、環境省より令和6年度前期「自然共生サイト」に認定されました。10月30日に認定証授与式が行われ、環境省の3名の方を小径にご案内しました。

11月8日には、復建調査設計の役員の方々や大学を訪問されました。両日とも、CSRメンバーと生き物の話を交えた意見交換を行い、和やかな雰囲気での視察が行われました。



キャンパスのフウ

フウ属は、北アメリカ・中国・台湾・小アジアに4種が分布しています。



フウ (タイワンフウ)

台湾原産。日本には江戸時代中期に渡来。雌雄同株。葉は3裂する。モミジバフウと比べて紅葉は、やや遅れる。
 * 教育学部周辺に植栽されています。



モミジバフウ (アメリカフウ)

アメリカ原産。葉は、カエテのように掌状に5~7裂し、秋には美しく紅葉する。枝には、コルク質の翼ができる。
 * 工学部、理学部周辺に多く植栽されています。



工学部の並木道(11月)

フウによく似た集合果をつけるアラタナスの仲間は、ススカケ/キ科の植物です。

キャンパスの環境整備



11月10日に、坪田先生の展開セミナーの授業として、宮島自然植物実験所及びCSRのメンバーが合同参加して、工学部西斜面のマツ枯れ伐採木の整理を行いました。手頃な長さで切ったマツ木は、薪に再利用出来るように検討中です。

“(旧)学校教育学部のシンボルツリー”

カイ/キ



カイ/キの果実

中国原産のウルシ科の落葉高木。雌雄異株。別名：ランシンボク。中国では孔子廟に植えられていることで有名。科学の進士に合格したものに楷の笏を送ったことから、学問の聖木とされる。書の楷書(かい書)は、この樹の小葉が軸に対して直角に階段状(楷の意味)にできることから。ピスタチオもカイ/キの仲間。



学校教育学部は、平成12年の改組で、教育学部に統合されました。

栽培実習・R6年秋コース



馬術部からいただいた馬糞堆肥を加えて、土作りを行いました。

猛暑の影響と夏季休暇中を考慮して、R6年秋コースは、例年より2週間遅く講座をスタートしました。今回は、参加者も多く、活気よく実習が進められています。カズヤシュンギクはそろそろ収穫時期を迎えています。10月にはサツマイモ掘りも体験しました。



FN コケ観察会&コケテラリウム作り



コケの基礎知識を勉強

11月9日に、CSRが中心となり、フィールドナビを実施しました。見分け方の難しいコケ植物を、キャンパス内の学生会館周辺を歩いて観察しました。教室に戻って、採集したコケでテラリウム作りも行いました。



ルーペを使って観察

第18回ホームカミングデー

11月2日に、理学部企画として、温室公開、樹木クイズ、ドングリ工作、しめ縄作り他、CSRメンバーが「生体展示」として、生き物の解説を行いました。前日から警報級の雨が降り、準備等が大変でしたが、午後からは晴天となり、多くの参加者で賑わいました。



園内の植物

タイワンホトギス *Tricyrtis formosana*



ユリ科

台湾では、ごく普通に見られる多年草。日本では、西表島に分布。山地のやや湿った場所に生育。園芸用に栽培されているものは、ホトギスとの交雑種が多い。花期は9-10月。

園内の植物

ハナキリン *Euphorbia milii*



トウダイグサ科

マダガスカル原産の低木。茎は多肉で棘が密生する。岩場に生え、岩の質により草姿や花色に変異が見られる。花が美しく観賞用に栽培される。茎を切ると出る乳液は有毒。



【お問い合わせ先】

広島大学 東広島植物園

TEL:082-422-7111 (内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp